

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 せいわのわ 池川こども園

## 1. 本園の教育目標

- 人として自立した生活を営むために、生活リズムと基本的な生活習慣を身につける
- 体を目一杯使って活動することを通して、体力や気力を養う。
- 他人の気持ちや考えを大切にす心や態度を養う
- 日本の伝統的な作法の基礎を学ぶ
- 他の生物の命を頂くことによって、自分の命が維持されていることに感謝する心を養う。
- 他人とのよい関係を築いていくために、豊かな言葉を身につける
- 自然事象や美しいものに触れる中で、五感を磨く
- 美しいものや感動したものを表現しようとする意欲を養う

## 2. 本年度重点目標・計画

子どもたちと職員が、主体的に活動することができる園を目指し、カリキュラム・マネジメントに取り組みます。

- 乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深めるために保育カンファレンスを行います。
- 乳幼児教育における見方・考え方に基づいて、週案を作成します。
- 共通の課題に向かう職員の協力体制を作ります。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況	評価
①	乳幼児教育における見方・考え方についての理解の深まり	乳幼児教育における見方・考え方（幼児が身近な環境に主体的にかかわり、環境とのかかわり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになるという見方・考え方）についての理解は、職員によって個人差がある。したがって、無理のない形で理解を深めていきたいと考え、エピソード記録会やクラスミーティングの持ち方を試行錯誤してきた。付箋に記入して意見交換することで、話し合いが豊かになり、参加した職員から「そんな考え方もあるのね」「私は、こう思う」等、自分達の意見を言い合えるようになってきた。 月に二回エピソード記録のカンファレンスを行うことによって、保育や子どものことについて話し合う	B

		<p>時間が持て、乳幼児教育における見方・考え方についての理解が深まってきた。</p> <p>また、自由活動の記録を毎日書くことによって、以前より、子どもの興味と活動展開が見取れるようになりつつある。</p> <p>まだ、個人差はあるが、前向きに意見を出し合う姿があり、少しずつ理解を深めることが出来ているように思われる。また経験年数や担当クラスが違う職員からの意見は、新鮮で保育の参考になっていると考えられる。</p>	
②	乳幼児教育における見方・考え方に基づいた週案の作成	<p>カリキュラム・マネジメントについての職員の理解が進んでいくように、園長・主任保育士が意識的に取り組んでいくことで、少しずつ、職員の理解も進んでいるように思われる。今は、幼児クラスでの取り組みのみであるが、その取り組みを職員会で全職員に伝えることで、園全体の意識も上がってきているように思われる。</p> <p>エピソード記録のカンファレンスを積み重ねることにより、乳幼児教育における見方・考え方についての理解が深まっていく中で、これまでの週案に重複している箇所や必要ない記述があることに気づき、週案を見直すことにした。ねらい・内容（子どもは何に、誰に、どんなことに興味を持つか？どんなことを楽しむか？）を子どもの興味や発達にあったものになるように設定した。ねらいに対して、「環境構成・援助」「反省・評価」がリンクしておらず、分かりづらかったので、ねらいに番号を付けることによって、それぞれリンクされ見やすくなった。</p> <p>課題であった好きな遊びの部分の充実についても理解が深まってきている職員もいる。主任保育士が助言（やり方を細かく伝える）をすることで、今までの週案より見やすく、次年度に残せるものになっている。改善の途中であるが、カンファレンスを継続することで共通理解を深めているところである。</p>	B

③	共通の課題に向かう職員の協力体制作り	今は、主に幼児クラスが、カリキュラム・マネジメントに取り組んでいるが、その進捗状況を職員全体に周知することで、乳児クラスの職員にも話し合いを持つ場面などで協力することをお願いしている。園長・主任保育士がリーダーとなり、協力体制を整えようとする意識を持つことで、経験年数、職歴など一人ひとりの職員の個性や特性をしっかりと認めて声掛けをし、園内の職場関係、協力体制作りを行っている。	B
---	--------------------	---	---

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>子どもたちの発達を見取れる職員が少なかったが、月二回のカンファレンスや自由活動の記録に取り組むことで、子ども達の姿を見取ることが出来始め、それに応じた環境構成・援助も進んでいる。</p> <p>職員の個人差もあるが、試行錯誤しながら取り組み、少しずつ成果が出てきているので、次年度も引き続き取り組みを行っていきたい。</p>

#### 5. 次に取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み内容
エピソード記録会の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回開催のエピソード記録会の持ち方を継続していき、乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深めていく。</li> <li>・職員一人ひとりが自分の意見や考えを出しやすい環境を作っていく。</li> <li>・園全体として「理解を深める」という部分では、まだまだ課題がある。今年度、取り組みをしている職員を中心に、新たな職員も加え、園全体で一緒に理解を深めていく。</li> </ul>
週案の作成の質的向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の週案を蓄積し、来年度に活かしていく。</li> <li>・乳児クラスも幼児クラスと同じように乳幼児教育における見方・考え方に基づいて、週案を作成していく。</li> </ul>
学校評価への保護者の更なる反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育や行事等についての保護者の満足度の把握をし、保育や次年度の行事に活かしていく。</li> </ul>

## 6. 学校関係者の評価

### 【仁淀川町役場教育委員会】

- ◎子ども達の顔が生き生きしていた。
- ◎カルタやコマを取り入れ、季節感があり園の教育目標である日本の伝統的基礎を学べるところが良かった。
- ◎B評価でなく、評価を少し上げて良いのではないかと思った。
- ◎保育士不足と言われる中、池川に移住して働いてもらえる園であることは、先生方にとっても選ばれる園、すなわち良い園であることを証明しているのではないか。
- ◎現状の状況を続けてください。

### 【地域第三者委員】

- ◎色々な体験を通して、子どもの心身の成長を促していると思う。
- ◎季節感のある環境整備がされていた。
- ◎週案、日案、カンファレンス、自由活動の記録等を通して、教育目標や取り組みが職員間に共有されていてそのことが、子どもの成長につながっていると思う。
- ◎子ども達一人ひとりが、やりたい事を生き生きと、人と関わりながら活動していた。

### 【園保護者】

- ◎子ども達が皆、楽しそうに過ごしていた。
- ◎色々な遊びができる環境は、子どもの好きなこと得意なことを伸ばせると思う。
- ◎0、1歳児から椅子に座ってお話を聞ける。また、友達の名前カードを漢字で読み、覚えていてすごいと思う。
- ◎週日案を細かく設定され、しっかりと目標を設定しそれを目指して保育をされている。
- ◎保護者のほとんどは、週日案や年度目標を設定して保育されていることを知らないと思います。素晴らしいことだと思うので、知れる機会があれば良いなと思います。

### 【国立大学法人 岡山大学 准教授】

- ◎0、1歳児のクラスでは、凧揚げを楽しんでいました。2歳児クラスでは、落ち着いて自然に生活や遊びが出来ていました。3～5歳児クラスでは、それぞれの子どもが好きな遊びをしていました。各クラスで、子ども一人ひとりに寄り添おうとする意識が見られました。
- ◎これまでの取り組みを継続すると共に、保護者の方にさらに目を向けていくという次への方向性も適切であると思います。